

東京弁護士会  
前年度会長

# 吉岡 桂輔

会員



前年度の東京弁護士会吉岡執行部は無事任務を終え、1年間の激務の幕を閉じた。弁護士大增員時代に突入した当会の運営は、これからより一層多難を極めていくと思われる。我々会員が会務を委託した吉岡執行部の1年を振り返り、前会長に話を聞いた。

(聞き手・構成：味岡康子)

— 1年を振り返って一番最初に思い浮かぶことは何ですか。

1年が終わってほっとしました。迷惑をかけることもなく元気に任期を終えることができ、駅伝でいうと、つつがなく次の走者にたすきを渡せたという思いです。

— 一番印象的だったことは？

法テラスが去年の4月に立ち上がり、10月に業務が開始され、これらが円滑に進んだことです。これまで弁護士会が行ってきた法律扶助、当番弁護士等の分野の集大成という意義は大きいと思います。

— 会長時代の平均的な1日というのは？

朝は早いですよ。午前8時前に弁護士会館に裏口から入り、午前8時や8時半から会議に入ります。ちなみに、早朝の弁護士会館では多くの清掃の人達が会館中をくまなく掃除しています。お昼も弁当を食べながらミーティング。午後も会議が多かったですね。日弁連の副会長も兼務なのでそちらの担当の会議も多いんですよ。

— 1年間でやり残したことや心残りは？

裁判員制度の広報活動や多摩支部新会館問題はまだやることはありましたが、ほとんどはやり抜いたと思っていますよ。

— 弁護士大增員時代を迎えて弁護士業界もいわば自由競争モデルに足を踏み入れたかにもみえますが、弁護士会は需要の確保にどのように対処しますか。

大增員の背景には弁護士過疎（東京都にもある）の問題や専門弁護士不足などまだ供給しきれていないニーズをどうするかの問題がありました。弁護士に対する需要と供給のミスマッチがあるかどうかを調査すること、求められている需要へのひとつの答えとして弁護士紹介センターを設立することが私の選挙時の公約でした。前者は弁護士ニーズ調査報告書の形で（5月に会員配布済）、後者は4月に設立を果たしました（LIBRA5月号特集）。

— この弁護士ニーズ調査報告書は、山積する大問題に取り組むには執行部の任期が1年では短か過ぎると指摘しています。

せっかくの指摘ですが、弁護士業務から2年間も離れて頑張ろうという会員はなかなか出てこないのではないのでしょうか。立候補する人がいなくなってしまうたら弁護士自治の崩壊だしね。いろいろな人が執行部を経験するのもいいのではないのでしょうか。

— 弁護士紹介センターについて、弁護士会が会員の専門分野を認定するのはいろいろ難しい問題もありそうですが。ただこれを放置しておく、2005年度に構造改革特

区として問題になったように、民間の業者が営利事業として弁護士を派遣する方向に流れる危険があります。専門認定まではしませんが、弁護士会として経験などの点を含めて供給体制を用意するということです。

— 東弁の会員数は約5100人、大所帯になっていく当会  
の意思形成システムはうまく作用するのでしょうか。

それは危惧しています。会員の自治意識が変わってしまうのではないかとね。会員が経済的に余裕がなくなり会務や公益活動に興味を失うことは弁護士自治の根幹にかかわりますからね。

— 2月の東弁の選挙では投票率が約75%でした。功罪あるものの会派が意思形成システムを担っている側面は否定できないのでは？

かつては、会派は選挙の時だけ動くとか会派に入っていない会員も多いということで評価は低かったものです。けれども会員数が5000人を超える大所帯になり、その意見の集約をどうするかは大問題になっています。実際、選挙のときだけでなく、勉強会、研究会が年間を通して行なわれ、司法研修所教官や修習生の指導弁護士を事実上推薦するなど、会派の担う役割も広範囲になっています。

— 今後の東弁の進む方向について。

会員数が増加していきますので、そのための対策、会内の情報伝達や会内合意の問題、また、臨時総会で賛同を得たOA刷新など、そのためのツールを今後とも工夫していくことが大事です。何よりも、会としての一体感を常に持つことが必要と思います。

— 一弁と二弁との提携については？

テーマによって三会一緒にやった方がいいものも、もちろんあります。対行政、対自治体の案件などは相手も安心します。また、IT化の問題なども巨大な予算がかかるので、できれば統一して開発した方がいい面もあるかもしれません。ちなみに2006年度は東京三会の会長同士連絡を取り合って非常にうまくコンタクトがとれていましたよ。

— 東弁の会長は、日弁連の筆頭副会長でもあります、現在の日弁連の動きについてどう思われますか。

司法改革の実行により日弁連の重要性は増してきて



06年度執行部は「7人のサムライ」。  
各分野のエキスパートが集まった  
いいプロジェクトチームでしたよ。

プロフィール よしおか・けいすけ

1947年12月生まれ。1970年早稲田大学卒。1972年4月東弁入会（弁護士登録・24期）。広報委員会、あっせん・仲裁センター運営委員会各委員長のほか、1993年度には副会長を務める。現在、公設事務所運営特別委員会委員長。

います。新しい立法についても、前よりも日弁連の意見を求められることが増えてきて、私も日弁連副会長として憲法や共謀罪の問題で国会に何回か行って意見を述べてきました。

— 日弁連の意思形成や執行体制について。

会長と13人の副会長による正副会長会議が毎週開かれ、そこで、重要なことが議論されています。今後はこれを支える事務総長以下の事務局、とりわけ事務次長らの増員強化が必要となるかもしれませんね。

— 副会長6人を交えての2006年度吉岡執行部を一言であらわすと？

7人のサムライかな。それぞれの分野のエキスパートが集まったいいプロジェクトチームでしたよ。

— 吉岡前会長は「自由と正義」の編集長もされ、たし、広報畑も詳しいので、LIBRAへの提言をいただければ。

一定の水準を保ちつつ読みやすさを追求すべきでしょう。作ったからには読んでもらいたいですからね。読んでもらうための工夫を考えてください。また若い人の関心事も特集に加えてくださいね。

— 最後に厳しい時代を迎える若い期の会員に一言。

ぜひとも積極的に様々な分野にチャレンジしてもらいたい。今回のニーズ調査結果にもヒントがいくつかあるように思います。もちろん会としてのサポート態勢にもさらなる工夫が必要でしょうね。